

# 法学部

法学科

丸暗記で得た知識では、激動する現代社会には通用しません。法学部では刻々と変化する社会において、その複雑な諸現象を客観的に分析するだけでなく、自らの主張を展開しようとする主体的な学生に入学してほしいと考えます。

 <http://www.law.osaka-cu.ac.jp/>  
Tel: 06-6605-2303



法と政治の視点から  
現代社会を考える

## 社会科学の素養と法的思考を身に付ける

法学・政治学は人間の歴史の中で積み重ねられた学問であると同時に、社会の新たな変化に立ち向かう学問でもあります。この法学・政治学を学ぶことの目的は次の三点にあります。第一には、現代社会に生ずる諸現象を冷静に分析し、将来の動向を的確に予測するために必要な「社会科学の素養」を身に付けること、第二には、人々の間に発生する多様で複雑な諸問題を正確に把握し、適切な解決を示すことができる「法的思考（リーガル・マインド）」を身に付けること、第三には、裁判官・検察官・弁護士などの法律専門職や公務員などの行政専門職につくために必要な基礎的能力を修得することです。

法学・政治学を法学部で学び、社会科学の素養と豊かな法的思考を身に付けた学生は、卒業

後、法律専門職や行政専門職はもちろんのこと、国際機関職員、民間企業などさまざまな分野に就職し、いずれの分野でも高い評価を受けています。



## 新しい時代のニーズに対応したコース

法学部では、多くの優れた卒業生を輩出してきた伝統を受け継ぐとともに、新しい時代のニーズに対応するために、学生の将来設計（キャリア・デザイン）を見据えた履修コースを設置しています。将来の専門法曹などを目指す者が法律基本科目を中心として学ぶ「司法コース」、公務員などを目指す者が法律科目だけでなく、政策立案能力を育成するため政治学・行政学を学ぶ「行政コース」、国際化時代にふさわしい企業人やマスコミを目指す者が政治学や国際関係法などの幅広い社会科学の知識を習得する「企業・国際コース」です。あなたにふさわしいコースがきっと見つかるはずです。



### Student Voice

#### 政治学から法学へ、興味の幅が広がった

上田 光希さん（法学科 4年生） 奈良県立郡山高等学校 卒業

入学当初は政治学への興味が強かったのですが、裁判結果によって法令が改正された事例などを学ぶうちに、政治と法律が密接に関係していることを実感し、法学にも関心が広がりました。「ドイツ法」の授業では、古典を読むことで、国家の形成過程や法と政治の関係を認識し直すことができ、興味深かったです。また、「社会保障法」の授業では、生活保護受給者への偏見などについて学び、社会保障の在り方を深く考えました。さらに、3年次の法社会学ゼミでは、「地方自治」をテーマに、法が社会にどのような影響を与えているのかという法のリアルな姿を探求しました。

私は、主専攻のほかに、コミュニティ再生副専攻を選択し、地域社会に関わりました。授業で公務員の方に取材し、地域を思う熱い思いに触れたことで、就職先として行政機関を志望するようになりました。法学の知識を生かしながら、柔軟な考え方ができる公務員を目指します。



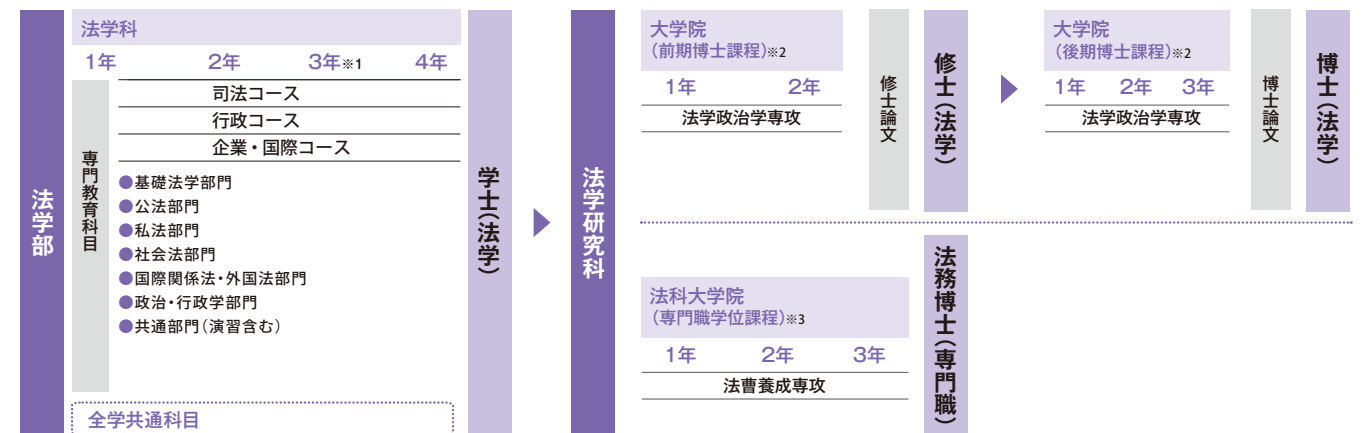
### Professor Voice

法だけでなく  
背景にある社会を  
理解することが大切です

阿部 昌樹先生（法社会学）

法令には複数の解釈が存在する場合があります、それらを知るだけでなく、その解釈が生まれた事情や、背景にある社会を理解することが必要です。上田さんは副専攻で社会と接する機会がありますが、皆さんも複雑な社会と向き合い、物事を多角的に捉えられるようになってほしいと期待します。

### カリキュラム



※1: 飛び級入学制度＝成績優秀者は、学部3年次終了後に大学院前期博士課程を受験することができます。  
 ※2: 年限短縮制度＝成績優秀者は、前期博士課程の在学期間（標準2年）を短縮することができます。また、後期博士課程の成績優秀者は、在学期間（標準3年）を短縮して修了することができます。  
 ※3: 入学者は、所定の単位を3年間で修めなければならないませんが、法科大学院に提供される科目の一定範囲につき、すでに充分量を有すると判定された者は、2年間で修了することも可能です。



# 研究熱心な教員を中心とする 充実した教員集団による 密度の高い少人数教育

法学部では、研究者として優れていることが良い教育者であることの必要条件であると考え、実力本位で、全国各地の大学から、優れた研究者を教員として採用することに努めてきました。そして現在では、法学・政治学の各分野における研究の第一線を担い、また将来を期待される中堅・若手の研究者を中心とした、全国的に見ても研究者としての水準の極めて高い教員集団を擁する学部となっています。

法学部で学ぶことの魅力の一つは、少人数教育を通して、このような充実した教員集団との密度の高い交流の機会が得られることにあります。そこでは、専門的な学問のみならず、研究者としての姿勢から、多くの知的刺激を得られるはずです。

## 主要専門教育科目

### 【基礎法学部門】

- 法哲学 ●法社会学 ●日本法制史
- 日本近代法制史 ●東洋法制史
- 西洋法制史 ●ローマ法

### 【公法部門】

- 憲法第1～2部(基本的人権、統治機構)
- 行政法第1～2部(総論、各論、行政救済法)
- 租税法 ●刑法第1～2部(総論、各論)
- 刑事訴訟法 ●刑事政策

### 【私法部門】

- 民法第1～5部(総論、物権法、債権総論、債権各論、家族法)
- 商法第1～3部(総論、商行為法、会社法、手形・小切手法)
- 金融商品取引法 ●民事訴訟法
- 民事執行・保全法 ●倒産法

### 【社会法部門】

- 労働法(集団的労働法、個別的労働法)
- 社会保障法 ●経済法 ●知的財産法

### 【国際関係法・外国法部門】

- 国際法(国際法の基本原則、紛争処理法)
- 国際組織法 ●国際経済法 ●国際私法
- 英米法 ●ドイツ法 ●フランス法
- アジア法(中国法)

### 【政治・行政学部門】

- 政治学 ●比較政治学 ●政治過程論
- 政治学史 ●日本政治外交史
- 欧州政治外交史 ●国際政治
- 行政学 ●公共政策論

### 【共通部門他】

- 法学入門 ●政治学概論 ●法学政治学計量分析 ●発展科目 ●基礎演習
- 法政2年次演習 ●専門演習
- 演習論文 ●外国語演習(英語、ドイツ語、フランス語、中国語) ●特別研究

## 法科大学院「ロースクール」

大阪市立大学は、2004年4月に、法科大学院(ロースクール)を開設しました。多くの優れた専門法曹を社会に送り出してきた伝統を継承し、弁護士、裁判官、検察官といった専門法曹の養成に、より一層の力を注いでいます。



自習室では1人1机を確保し、自主的な勉強の場を提供しています

### ～都市で学ぶ、都市から学ぶ 市民のための法律家の養成～

大阪市立大学ロースクール(大学院法学研究科法曹養成専攻)は、大都市大阪市の市域に設置された唯一のロースクール(法科大学院)として、大都市であるがゆえに発生するさまざまな法的問題に即応できる高度な法的能力を備えた、真のプロフェッションとしての法曹養成を目指します。

### 法科大学院の情報はホームページで!

法科大学院に関する最新情報を順次掲載しますので、そちらにもぜひご注目ください。

<http://www.law.osaka-cu.ac.jp/lawschool/>



## 大阪市立大学法学会

法学部の専任教員、賛同者および法学部学生・法学研究科大学院生を会員とする任意団体が大阪市立大学法学会です。

法学・政治学に関する研究およびその助成、「法学雑誌」、「法学叢書」の刊行と学生の研究・教育活動への援助、また、講演会・法廷傍聴、法律事務所訪問などの開催を主な活動としています。

## 大阪市立大学 無料法律相談所

法学部では、学生と教員による無料法律相談が定期的実施されています。無料法律相談は、市民の期待に応えるだけでなく、学生が「生きた法学」を学ぶのに恰好の機会を提供しています。

受け付けできる相談は賃貸借や離婚・相続など民事事件に関わる事案です。なお、刑事事件や行政事件、裁判や調停等で係争中の事件は受け付けていません。

## TOPICS

### 人権感覚豊かな現代社会の担い手を育成する

法学部は、ロースクールを目指す学生にはそのための基礎的能力を修得させつつも、学部教育全体としては、より広く、社会科学的な素養と法的思考(リーガル・マインド)を身に付け、人権感覚豊かで有能な民主主義社会の担い手となりうる人材を育成することを教育の理念・目的とします。



## 講義紹介

### 藤井徳展先生 一民法一

民法の講義のひとつです。例えば、買ったパソコンが壊れていたときその他契約の問題、自動車で人をはねてけがをさせたときの賠償その他不法行為の問題などを、法的に考える基礎的知識・能力の修得を目指します。



### 宇羽野明子先生 一政治学史演習一

政治学史演習では、R・W・デイヴィス編『西洋における近代的自由の起源』(鷲見、田上監訳、慶応義塾大学法学研究会、2007年)を手がかりに、ヨーロッパ政治思想史における「自由」概念についての理解を深めました。難しい論文集でしたが、「わからないことを恐れない『好奇心』」で、学情(図書館)で参考文献を調べたり、ときには英語の原書にあたりたりと、みんなで格闘しながら読み解きました。



### 卒業生からあなたへ

やまだ はるか  
山田 悠さん  
早稲田大学大学院法務研究科 未修2年生  
法学部 法学科  
2010年9月卒業



現在、法科大学院に通っています。それ以前は、国際NGO、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンに勤務していました。将来は弁護士になり、人権を侵害されている人に対する支援を法律面から行おうと考えています。市立大学で受講した国際政治ゼミでは、国際政治上の出来事をさまざまな角度から分析し、自ら思考して文章にまとめるというスキルを身に付けることができました。市立大学では、基礎的な法律知識を身に付け、その知識を使って活躍できる幅広い職業の情報を得られますので、ここから多種多様な分野で活躍する人が輩出されることを期待しています。

## 法学部のあれこれ Q&A

### Q 法学部ではどのような勉強をしていけばよいですか?

A もっぱら法律の条文を暗記することが法学部の勉強ではありません。もちろん法律の細かい知識を知ることは大切ですが、同時にそうした知識が社会の中で持つ意味を考えなければなりません。そのために、法学と同時に広く政治学も学ぶのです。柔軟にルールを使いこなす、批判し、改良できる人材を育成するための、充実した諸講義を提供します。

### Q 卒業後の進路にはどのようなものがありますか?

A 裁判官・検察官・弁護士などの専門法曹を目指すなら、卒業後、法科大学院に進学します。そのほか、公務員、マスコミ関係、銀行・保険・証券、国際機関職員など、卒業生の活躍の場は広がっています。在学中は自分の就職の方向を決めつけず、教員や友人たちとの交流を通して、自己の才能を開拓、開花させる努力を継続することが大切です。

### Q 法学・政治学の生きた姿を学ぶ機会が講義以外にもありますか?

A 法学部の全教員・学生を会員とする「法学会」が、法廷傍聴、弁護士事務所訪問のほか、多様なキャリアを持つ方々の講演会などを企画して、法学・政治学の生きた姿を学ぶ機会を提供しています。このほか、教員と学生が所員である「無料法律相談所」も、その活動を通して市民の期待に応えるだけでなく、「生きた法学」を学ぶ機会になっています。